東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所
2024年度　パフォーマンス向上会議情報(2024年7月24日(水)分)

◆不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。
法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の
不具合が対象になります。

2024年7月24日のパフォーマンス向上会議で審議された不適合は、下記のとおりです。

番号	不適合内容	グレード	発見日
1	【屋外階段での転倒災害ならびに労災未報告について】 2022年2月17日、協力企業作業員が免震棟から旧情報棟内の装備交換所へ移動中に、旧情報棟北の屋外仮設階段から足が滑り転倒。 右足骨折の災害が発生。 当該作業員の所属企業および二次請け企業までは報告されていたが、一次請け企業および元請企業への災害発生報告がなされず、当社への報告もなかった。 当該現場については、転倒防止対策として滑り止め防止テープの貼付を実施。 協力企業に対し労災報告に関する意識醸成教育を実施していく。	GⅡ	7月22日
2	【1号機燃料プール水温評価シートにおける評価の誤りについて】 当社社員が、1号機カバー設置工事において燃料プール水温度評価の条件の見直し検討を実施していたところ、1号機燃料プール水温度評価シート※における評価条件の誤りを発見。 経緯を調べたところ、2023年11月に5号・6号・共用プールの水温予測式の見直しに伴い、Excelシートの変更作業を実施。 併せて、1号・2号・5号・6号・共用プールのExcelシートを統合した際、1号機の評価条件でプール表面積の設定を誤ってしまったもの。 計画的な1号機燃料プール冷却停止を2023年11月～12月の4日間で実施した際、誤ったExcelシートを用いて水温を評価実施。 冷却停止時の水温から約1℃の上昇と評価したが、正しい評価は約3℃の上昇であった。 なお、冷却停止時の水温から約3℃の上昇と評価した場合でも、実施計画は満足していることを確認。 1号機の燃料プール水温度評価条件を正しい設定に修正を実施。 また、他号機についても設定に誤りがないことを確認。 今後、再発防止策を検討する。 ※設備点検等に伴いプール水温度が確認できない場合の評価時に用いるExcelシート	GⅢ	7月22日
3	【高濃度滞留水処理・貯蔵状況(公表資料)の記載誤りについて】 2024年7月22日に、当社社員が公表資料を作成していたところ高濃度滞留水処理・貯蔵状況※第659報(2024年7月16日公表済み)の記載内容の一部に誤りがあることを確認。 なお、実際の貯蔵容量の管理状況には誤りがなく、貯蔵状況に影響はない。 7月16日の公表資料に誤りがあることを、関係各所に連絡すると共に、当社HP等へ訂正版を7月23日掲載済。 今後、再発防止策を検討する。 ※『福島第一原子力発電所における高濃度の放射性物質を含むたまり水の貯蔵及び処理の状況について』	GⅢ	7月23日